



ハーブ通信

2009年

1月号

(第32号)

<http://www.hurp.info>

## 人を大事にする政治実現の年

HuRP 理事長

浦部法穂 (名古屋大学教授)

2009年は先行き不安いっばいのなかでスタートしました。米国発のいわゆる「金融危機」が、世界中の人びとの暮らしを脅かしています。日本でも、「派遣切り」などのかたちで、非正規雇用者を中心に大量のリストラが行われています。3月末までに職を失う人は40万人に達するともいわれています。

日本経済は、2007年の終わりくらいまで、戦後最も長い景気拡大期にあったといわれてきました。バブル崩壊後、2002年前半頃から上向きはじめた景気が5年以上拡大を続けてきたというわけです。しかし、その間、私たちの生活実感としては、決して景気が良いとは感じられませんでした。それもそのはずで、景気が良くなれば働く人びとの賃金も上がるのが普通なのに、この戦後最長の景気拡大期に、賃金は上がるどころか、下がっているのです。企業は空前の利益をあげながら、それを労働者には分配しなかったわけです。そのかわり、経営者や投資家は使い切れないほどのお金を得て、そのお金が金融バブルをもたらし、それが破綻して現在の「金融危機」を招いたのです。

マネー・ゲームの果ての「派遣切り」です。こんなことが許されていいはずがないと、心ある人なら誰もが思うでしょう。しかし、他方、こういう社会、そしてそれを推進する政治を認めてきたのは、ほかならぬ私たちだったのです。「小泉改革」をもちあげ、「郵政選挙」で与党を圧勝させたのは、日本の有権者であり、ほかの誰でもありません。今年は、必ず衆議院総選挙が行われます。2009年は、マネー・ゲームのための政治ではなく、ほんとうに人を大事にする政治、私たちの暮らしを良くする政治を、私たち自身の手で実現する年にしなければならないと思います。



# 世界史のなかの日本国憲法の意義

2008年12月6日



会場となった伊藤塾高田馬場校

2008年12月6日、法学館リレーレクチャーで浦部法穂先生が「世界史のなかの日本国憲法の意義」という題でお話してくださいました。

この講演は、法学館憲法研究所の連続講座をもとにされたものです。また、この連続講座をもとにして「世界史の中の憲法」という本も出版されています。

講演では、「憲法は権力者を縛るもの」であるが、そもそもなぜこのような考えが生まれたのかということを経史を紐解いてお話してくださいました。

浦部先生は、前述の本のはしがきに、これまでは、憲法は権力者を縛るものということがあまり意識されていなかったが、現在では「市民の皆さんの間にも、憲法というものはそもそも権力担当者を縛るものであって権力を担う人たちが守るべきものなのだ、という認識も、だんだんと広がってきたように思います」と書かれています。

私自身も、大学に入学するまで、憲法が権力担当者を縛るものであるということについて意識したことがありませんでした。大学の講義でそのことを学んだときは、本当に衝撃的でした。そして、その衝撃の大きさがきっかけとなって憲法に興味を持つようになりました。憲法について考えていく上での出発点は「憲法は権力者を縛るものである」ということですが、私自身の学びにとってもここが出発点となっています。



浦部法穂 教授

先生のお話のなかで印象に残ったのは「切実な要求」という言葉です。先生は、憲法は抽象的な理念・理論から生まれたものではなく、現実の歴史の中から、切実な要求から生まれたものであり、「日本国憲法が抽象的・理念的に『良い憲法』だから守らせる、というのではなく、『切実な要求』を実現するための道具として憲法を利用するという観点を意識的にもつ必要がある。」と仰っていました。

私は日々の学びの中で抽象的な理念や理論に埋もれてしまい、先に進めなくなってしまうことがよくあります。先生のお話を聴いて、私には「切実な要求」という観点がなかったこと、さらに、ないということは即ち「切実な要求」が自分にとって身近なものではなかった、ということに気付きました。

どんなに理論を学んだところで、それを現実のものとして捉えることができていなかったら、その理論は意味をなさないものになってしまうと思います。学ぶ上で、とても大事なことを気付かせていただくことができ、大変刺激的な講演会でした。

(K 下)

## 『世界史の中の憲法』 刊行のお知らせ

浦部法穂理事長が法学館憲法研究所双書から『世界史の中の憲法』を刊行されました (1500円+税)。

この本は、わたしたちが以前お伝えしました浦部法穂教授による法学館憲法研究所の連続講座「世界史の中の憲法」で講義されたことがまとめられたものです。

憲法およびその基本的な考え方である、人権、国民主権、権力分立というものが誕生し成長してきた歴史、平和主義という考え方の歴史、戦争と平和の歴史、国家と国民の歴史を解明するものです。憲法とそこに盛り込まれた基本的な原理・原則がどのような歴史の中で唱えられ、人々に受け入れられるようになってきたのかが物語風に語られています。



(HuRP 通信 7月号記事・連続講座「世界史の中の憲法」感想より抜粋)

第1回目は「憲法」という考え方の歴史ということで、この講座の最も骨格となるものでした。

冒頭で浦部先生は「憲法とはいったい何なのか」ということについて、国民に十分に理解されてこなかったという問題がある。最近(憲法が)権力者を縛るものであるという認識がされてきたとは思いますが、多くは「(憲法は)自分たちが守るものと勘違いし、権力者が守るものであるということを認識してこなかった」。そういうところを理解しなければならぬと仰っています。

先生が、色々な講演会で「憲法は誰が守るものか」と尋ねたところ、「自分たち(国民)が守るもの…」という答えも多かったようです。

ここまで聞くと、私自身かつて机上で学んだ時代を思い出しました。

つまり憲法第99条についてのことを取り上げられており、それは憲法を尊重し擁護する義務を負うのは「天皇又は摂政及び国務大臣、国会議員、裁判官その他公務員」であり、ここには「国民」は含まれていない。

要するに「公務員」まさに国家権力の担い手側の人達に憲法を守りなさいと言っているのだということが正確に理解されていないということです。……

**憲法の起源とはなにか、憲法の役目とはなにか、ぜひご一読ください。**

お問い合わせ・ご注文は法学館憲法研究所

メール [info@jicl.jp](mailto:info@jicl.jp) FAX (03-3780-0130)

またはHuRPまでご一報ください。

## HuRP連続企画『原文にふれて学ぶ人権・平和そして人間』第2回のお知らせ

さまざまな言語で書かれた、人権や平和についての文章を原文で読んでみませんか？

その国の豊かな精神文化にふれて、毎回、何かひとつ言葉を覚えて帰れば、それまでと違った視点で物事を見ることが出来るかもしれません。

第1回のルソム・テクレさん(ティグリニャ語)に続きまして、ドイツの弁護士、マーク・デルナウアさんに、ドイツにおける戦後教育、その経験と思いなどなど、日本語で語って頂きます！ドイツの現在

に興味のある方、ドイツ語をちょっとかじりたい方、論文制作に行き詰っている方…等々、ドイツ語とともにその歴史について、日本語で学べる機会です。

是非、ご参加ください！

## 第2回：ドイツ語

講師：マーク・デルナウア  
(Marc Dernauer)さん

【日時】 2月7日(土) 15:00～17:00

【場所】 伊藤塾御茶ノ水校

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-1-20

お茶の水ユニオンビル (6F)

Tel: 03-5281-5377



第1回に配られたノート。ここにレッスンの内容を  
書き込んでいきました。

お問い合わせ：

hurp@hurp.info <hurp@hurp.info>

カラダに平和を 自炊のススメ

## 32 小松菜とナスのみそ炒め

別名を冬菜(フユナ)といい、今が旬の小松菜をいただきました。さらに、会員の方に『名古屋圏で知らない人はいない』という「つけてみそ かけてみそ」というマヨネーズタイプの味噌ダレをいただきました。

材料：豚肉、ナス、小松菜、「つけてみそ かけてみそ」

手順：

1. 小松菜は4cmくらいのざく切りに、ナスは縦に細長く5mm位の薄切りに。
2. 熱したフライパンに油をしき、豚肉、ナス、小松菜の順に炒める。
3. 火が通ったら塩こしょうで味を付ける。
4. 仕上げに「つけてみそ かけてみそ」をかけ、さっと炒め合わせてできあがり



甘い赤みそが「あ、名古屋だねえ」と言ってしまいそうなおいしさでした。たくさんいただいた小松菜でおひたしもつくったのですが、それにもこのたれをかけて食べたらおいしい！千葉と東京で暮らしてきて始めて知りました(売っているのを見たことがありませんでした)。ありがとうございました！

1月はオバマ氏が大統領になったというニュースでもちぎりましたが、良い“change”があることを望まずにはられません。また、また、浦部理事長が言われたように、必要であればわたしたちも“change”していくことが大切なのだ、と思いました。今年もよろしく願いいたします。(T本)



特定非営利活動法人「人権・平和国際情報センター」(HuRP: ハーフ)  
Human Rights and Peace Information Center JAPAN (HuRP)

〒101-0065 東京都千代田区西神田2-7-6 川合ビル41号室 TEL&FAX 03-3234-3231  
e-mail hurp@hurp.info HP <http://www.hurp.info/>